

重症心身障害療育の研究の仕方と論文・抄録の書き方

聖隷おおぞら療育センター
横地健治



ベラスケス
「フェリペ・プロスペロ王子」
(ウィーン美術史美術館)
(2015.10.多摩)

研究テーマ

- 重症心身障害の内面
 - ・感覚・認知・好悪
 - ⇒ コミュニケーション
 - ⇒ 活動
 - ⇒ 問題行動対応
- 重症心身障害の身体的特殊性
 - ・姿勢保持・呼吸・消化管機能・摂食
 - ⇒ 介護法
 - ⇒ 医療的ケア

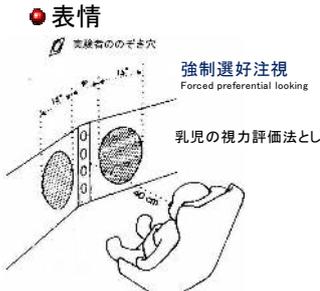
現場での発見を発信する

研究の学問性

- 独創性
 - ・過去の同研究の総括が必要
 - 怠れば盗作になる
 - 重症心身障害領域では必要度は低い
 - ・真理を知る人の指導・研修を受け実践する これは不可
 - 真理を知る人を認めたら、学は不要となる
- 実証性
 - ・数値化→統計処理
 - 多数例の研究(標本と母集団の関係がある)に限る
 - 1例研究で統計処理は不可
 - ・観察の定性的評価→複数観察者の高い一致率
 - ・仮説の設定
 - 仮説に基づいた働きかけの結果が仮説通りの結果となる
- 再現性
 - ・読者が追試できる

表出の受け取り方

- 姿勢の変化・動作の変化(停止)
- 視線・まなざし・アイコンタクト
- 表情





重症心身障害療育研究の評価法の主流

研究論文の構成

- ・要旨
- ・はじめに
- ・対象
- ・方法
- ・結果
- ・考察(結論)

投稿ファイル構成

Wordファイル 以下で改ページ

- ・タイトル
- ・要旨
- ・本文
- はじめに・対象・方法・結果・考察
- ・文献
- ・図説明文

表ファイル(WordかExcel)
図ファイル(JPEG)

要旨

- 本文を読まない人のもの
- 本文のすべてを含まねばならぬ
- ✓ 見出し付けを求める雑誌が多いが、本誌は求めず
- 例:【目的】、【方法】、【結果】、【結論】
- ・改行はしない
- ・最後に書くもの

はじめに

- 研究テーマに関する過去の研究をまとめる
 - ✓ かつての研究の最新の総説を文献としてつける
伝聞調は禁 △△は「……」と言っている
- それを踏まえて、本論文は何を解明しようとしているかを記す【目的】
- この目的のための研究方法を一言で記す

例文:

……については、……が知られている(文献番号)。しかし、……は未だ不明である。(現在形)

そこで、……を明らかにするため、……(対象)の……(方法)について調べた。(過去形)

対象

- 文章で書くのが原則(箇条書きではなく)
 - ✓ 文章では書き切れないなら、表とする
- 年齢、性は必須
- 少数の対象者では、脳病変の医学的診断を記す
 - ✓ 保険病名は禁
- 障害程度を記す → 横地分類を推奨
- その他の方法に関する事項を記す

例文:

X名(男Y名、女Z名)を対象とした。年齢はX-Y歳(中央値Z歳)であった。脳障害原因は、先天性疾患X名(Rett症候群Y名、……)、周生期脳障害X名(成熟児低酸素性虚血性脳症Y名、早期脳障害Z名)、頭部外傷後遺症X名、急性脳症後遺症X名、……であった。横地分類では、A1がX名、A2がY名、……であった。(過去形)

方法

- 文章で書くのが原則(箇条書きではなく) (過去形)
 - ✓ 文章では書き切れないなら、表とする
- 何時の研究かは記す
 - ✓ 「研究期間」として別項目とはしない
- 方法は具体的に記さねばならぬ
 - ✓ 以下のような方法の記載は禁
 - ・ 何々の研修を受けて従った 完全な研修などあり得ない
 - ・ 職場のカンファレンスで統一した関わりを決めた
いつも誰でも同じ関わりはあり得ない 多様性は善である
能力差があって、統一させるなら、一番下にそろえることになる
- 利用者との関わりの変更が方法なら、その完遂程度を評価することも方法に含める
- 測定機器を使う場合は、その機器の商品名、その測定方式を記す。また、その測定法を詳述した文献を付ける
 - ✓ 官能評価がある場合は、測定機器の数値との一致度もみる
- 観察者の評価の場合は、多数者の一致度をみる
 - 例: 2者選択ならば、3名評価で、多数者の評価を採用する。そして、一致率を記す
- 職員アンケートで、対象者の評価をするのは不適當である

結果

- 方法に対応して記す(方法と対応のないものは記さない)
- 図・表で示するのがよい
 - ✓ 図表の内容を文章で二重記載することは禁
 - ✓ 同一の内容を表と図で二重記載することは禁
 - ✓ 考察につながる要点は、文章で記す
- 結果の意味するところは考察で記す

表

- 表はWordまたはExcelファイルとして、そのファイル名を「表X.docx(xlsx)」とする
- タイトル、表の下段に記す説明文も、このファイルに含める
- 横線のみで、縦線なしを原則とする

Table 3

Spontaneous movements in the supine position of healthy term infants and preterm infants with PVL n (%)

	Healthy term infants n (%)				Preterm infants with PVL n (%)
	Term (n=12)	1 month age (n=17)	2 months age (n=24)	3 months age (n=16)	
Lateral decubitus position	6 (50)	6 (35)	9 (38)	4 (25)	4 (25)
Maintaining shoulder abduction	3 (25)	3 (18)	12 (50)	7 (44)	6 (38)
Maintaining hip adduction	4 (33)	6 (35)	6 (25)	9 (56)	12 (75)

図・グラフ

- 1例で複数回検査した場合は、その推移をグラフ化すればよい
 - ✓ 再検査値がある場合は、信頼度のある1数値のみを採用する
- グラフ以外の図は極力なくす
 - ✓ 顔は極力載せない(同意があっても、目隠しても)

グラフの要点

▶ グラフ(図)はJPEGファイルとして、そのファイル名を「図X.jpeg」とする

▶ モノクロまたは白黒(カラーは不可)

▶ 縦軸・横軸の名称を示す文字は図に含める

▶ 図中に文字は入れない

▶ グラフの枠線は左縦軸と下横軸のみとする

▶ グラフ内の枠線は左縦軸と下横軸のスケールバーのみとする

▶ グラフ内の印の説明は、図説明文に記すのを原則とする(グラフ内には記さない)

▶ 図の説明文はWordファイルの文献の後に記す

まず、タイトル名を記す(「。」を付ける)。その後

に説明文を改行せずに記すのを原則とする

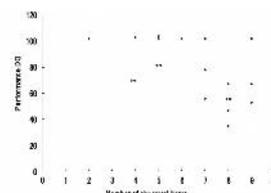


Fig. 3. Spontaneous movements in the supine position of the preterm infants with periventricular leukomalacia (PVL) and healthy term infants. Values are mean and standard deviation. n = 15, n = 118.

考察

- **はじめに**で記した目的の答えを、**結果**を根拠にして、**考察**の中で記す
- 本研究が、過去の同研究をどう発展させたかを記す
 - ✓過去の研究を伝聞調で記すことは禁。以下のように記す
 …については、今まで、……と考えられていた(文献番号)
- この研究テーマをさらに発展させるには何をすべきかを記す
- 本研究テーマと直接的関係のないことは記してはならない
- 考察の最後の段落は本稿の結論を記す
 - ✓これを**結論**として、考察の後に項目立てることを本誌では勧めない
 - ✓結果と無関係な決意表明を記してはならない

良い論文とは concise and clear

- 論文は読むもの *見ながら読む*
- 長文は悪文 *論文では特に当てはまる*
- 過度な項目立てはしない
- 飾り文字(カギ括弧、アンダーラインなど)は極力使わない
- 文中に数字は極力使わない
 - どうしても使うときは、以下のようにする
 …の理由としては、1)……、2)……、3)……、といったことが考えられる

事例報告論文 の構成

- 要旨
- はじめに
- 事例報告*
- 考察

*この中に小見出しを付けてもよいが最少にする

Wordファイル 以下で改ページ

- タイトル
- 要旨
- 本文
はじめに・事例報告・考察
- 文献
- 図説明文

表ファイル(WordかExcel)

図ファイル(JPEG)

抄録の書き方

- 表・図は不可で、簡潔な文章とする
- **結果**が最重要項目である
- 項目立てが明瞭であることが読みやすさにつながる
 - ✓新たな項目を極力作らない *段落が重要*
 - ✓箇条書きは極力使わない *文頭の数字番号付けは禁*
 - ✓飾り文字(カギ括弧、アンダーラインなど)は極力使わない
 - ✓文中に数字は極力使わない
 - どうしても使うときは、以下のようにする
 …の理由としては、1)……、2)……、3)……、といったことが考えられる

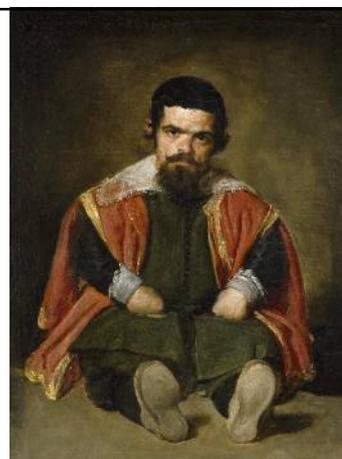
* 文庫本の余白

* 朝日新聞「天声人語」

口演の仕方

- スライドを見て聞くもの
 - 聞きながら見てわかりやすいスライドにする
 - スライド内の文字は最少、箇条書きが原則である
 - 関連したものが、複数のスライドにまたがらないようにする
 - 前のスライドを覚えていなければならないことは最少とする
- はじめにで目的を明示する
- **結果・事例報告**が最重要の部である
 - この時、考察の前触れをするとわかりやすい(論文では禁だが)
- **結論**で目的に対する答えを明示する
 - 結果と無関係な決意表明を記してはならない

重症心身障害は どんな人か



ペラスケス
「道化師セバスティアン・デ・モーラ」
プラド美術館